

テーマ:音

高松第二保育園(豊島区)

テーマを設定する

子供たちは物作りが好きなので、楽器作りを通して音を作り出す楽しさを味わい、音やリズムへの興味関心を広げられる経験の機会としたい。

活動① アーティストワークショップ1

身近な素材を使った楽器作り体験

環境をデザインする

●準備した物 ついたて(音あてクイズをする際に出题者が隠れて音を出す)
【手作り楽器(クイズ&制作に使用)】ティッシュの空き箱、輪ゴム、トイレトペーパーの芯、段ボール、タコ糸、濡れた布、スプーン、紙コップ、毛糸 ※4-5人で一つ試せるように用意
【手作り楽器(クイズのみ)】風船、ミルク缶の底を切り取ったもの、空き缶、ストロー

探究活動を実践する

- 活動内容
- ①「ゲゲゲの鬼太郎」を演奏しながらすなまきさんが登場。ウクレレ・クラリネット・口琴を紹介
 - ②「今日は楽器じゃないけど、いろいろな音が出るものをつくってみます」
 - ③「最初に音あてクイズをします。何をしてる音かな？」紙をやぶく音/ポテトチップスを食べる音
 - ④「この中(目の前にある身近な素材)のどれを使って、音を出しているでしょう」
風船と缶/空き缶とストロー/スプーンと紙コップ/段ボールと紐/トイレトペーパーの芯/ティッシュペーパーと輪ゴム
 - ⑤クイズに登場した手づくり楽器をつくって鳴らしてみる
～鳴らし方を工夫したり、きこえた音を動物に例えてみたり～
 - ⑥1人1つ手作り楽器をもって、みんなで「ゲゲゲの鬼太郎」を自由に演奏
 - ⑦次回に向けてのお話をして終了
「今度すなとまきが来るときまでにオリジナルの楽器をつくって、みんなで演奏しましょう」

●子供たちの様子

・紙コップとスプーンを糸でつなげた楽器。叩いてみると…「きれいな音がする!」「クリスマスの音!」という声が上がった。コップに耳を近づけると、音がもっと複雑に聞こえることを発見。交代で耳をよせあう姿があった。
・缶と風船のタイコ。叩いて缶をゆらしてみると…「へびみたい～」耳を近づけたり、缶の下からのぞきこんだりしながら音を聞き合う姿。力を入れてたたくと破れてしまうので、手の力を調整しながら叩いていた。

活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師:すなまき(音楽ユニット)	R6.11.22 (金)	65分程度	19人
② ・手作り楽器や、園内にある楽器に触れたり、鳴らしてみる。 ・お気に入りの楽器を見つけて、身近な素材でマイ楽器を作ってみる。 ・マイ楽器を使って全員で演奏する。(あわてんぼうのサンタクロース、オモチャのチャチャチャ)			
③ アーティストワークショップ2 講師:すなまき(音楽ユニット)	R6.12.25 (水)	60分程度	16人



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

・身近な楽器からこんな音がするんだという発見があって、それがオリジナル楽器作りへの意欲につながったように感じる。活動後に保育室に戻った時も、「先生!何あの魔法の楽器!」と子供たちから声が上がっていた。
・段ボールと紐の楽器では、力加減によって音が変わることに気づけていた。
・いろいろな音を集中して聞いていた。最初は緊張している様子もあったが、次第に活動に夢中になっていく姿があった。

テーマ:音

高松第二保育園(豊島区)

活動② アーティストワークショップ2

※1回目のワークショップでアーティストが見本として見せた「身近な素材で出来た楽器」を参考に、2回目までに園で一人ひとつの手作りマイ楽器を制作

こだわりの手作りマイ楽器を演奏して、みんなで音を楽しむ活動

環境をデザインする

●準備した物 ハンドベル、子供たちの手作りマイ楽器、椅子(人数分)
【カズー制作に使用】薄いフィルム(ポリシート)、シート(クリアファイルのようなPPシート)、ストロー、セロハンテープ ※4-5人のグループになり、机上で制作

探究活動を実践する

- 活動内容
- ①『ジングルベル』をハンドベルで演奏しながらすなまきさんが登場
「今日はみんなが見つけた楽器をみてみたいと思います！」
- ②一人ひとり、こだわりの手作りマイ楽器を紹介
(キラキラ光るライオンバイオリン・恐竜が竜巻に乗っている紙コップ楽器・色や模様もこだわり満載のタイコ・外で見つけた自然物を入れたマラカスなど)
- ③園で取り組んでいた『あわてんぼうのサンタクロース』をすなまきさんに披露
ギターは1番、タイコは2番…形が似ているマイ楽器の仲間で演奏
- ④『おもちゃのチャチャチャ』にあわせて自由にマイ楽器を鳴らしてみる
- ⑤すなまきさんが手作り楽器で演奏する『おもちゃのチャチャチャ』を聞く
- ⑥もう一度みんなで演奏
- ⑦「みんなでもう一つ楽器をつくります」声を出して鳴らすカズーづくりに挑戦
- ⑧筒状になったものに、ストローと薄いフィルムをセロハンテープでつけて完成！
みんなで鳴らしてみる
- ⑨マイ楽器かカズーかを選び、みんなで『赤鼻のトナカイ』を自由に演奏して終了

●子供たちの様子
・手作りマイ楽器紹介の場面では、「イヌみたいにしかかったから、おみみをつけたの」などと、緊張しながらも自分の作品を懸命に伝える姿があった。
・カズーの制作では、途中段階のものを口に入れて吹くと、ヴーと鳴って…「救急車のおとがする！」という声があがった。口にくわえて息だけ吹きこんだり、先端を指でつぶしながら吹いたり、くわえる範囲を少しにしたり、いろいろと試していた。
・最後にストローが配られると…「これだけでも音するよ、まだつけるの？」
・完成したカズーを吹きながら声を出す…「あははは！音でた！へんな音～！」「おーはーよーうー。きこえた？」という反応があったり、「これさ、ほくのどくっつけてみようよ」とお互いのカズーをくっつけて、声を出し合う様子も見られた。



振り返りをふまえた気づき

- 保育士から
- ・子供たちには緊張も見られたが、「すなまきさんにマイ楽器を見せるんだ」とこの日をとても楽しみにしていた。
- ・『あわてんぼうのサンタクロース』は園でも取り組んでいた内容であったが、すなまきさんと一緒に演奏できてよかった。子供たちにとっても、アレンジできることを知る経験になったと思う。
- ・カズー作りで、新たな音に出会えたことも、子供たちの興味関心を引き出していた。どうして？なんでだろう？と自ら考える姿があった。
- ・「音」への視点が活動を通して変わって来たように感じる。普段の遊びの中でも音を探すようになったし、じょうろから水が流れる音も「これも楽器かな？」という思いを持つようになった。